

平成30年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台学校長 西村 篤巳

学校教育目標		夢と志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成				
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・教科代表により学力向上委員会を設				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<p>○「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、全国平均を上回っている。</p> <p>◆文章の構成を工夫してわかりやすく書く問題に関しては、全国平均を4.2ポイント下回っている。(経年)</p> <p>◆文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題に関しては、全国平均を6.2%下回っている。(経年)</p>			
		算数・数学	<p>○方程式を解く技能の習得や比例の意味、三角形の合同条件や命題の過程と結論の理解の問題に関しては、全国平均を上回っている。</p> <p>◆与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現したり、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題がある。</p> <p>◆与えられた資料から必要な情報を選択し、数学的に分析、表現することに課題がある。(経年)</p>			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。</p> <p>◆効果的な学習方法を工夫することに課題がある。(経年)</p>				
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>○グループワークや話し合い活動に積極的に参加し、問題解決を図ろうとする意欲は高い。</p> <p>○放課後教室や質問教室などへの参加が増加している。</p>				
慣 学 ・ 力 生 活 上 活 習 に 係 等 る 学 習 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<p>○平日の家庭時間1時間以上の生徒が70%を超えている。</p> <p>◆通信機器、ゲームの利用時間が長い(2時間以上)生徒の割合が全国平均を上回っている。このことにより、家庭学習の時間が確保しにくい現状がうかがえる。(経年)</p>				
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<p>○授業がわかりやすさに関する肯定的評価が90%を超えている。</p> <p>○ICTの授業活用に関する肯定的評価の上昇がみられる。</p> <p>◆学習習慣の確立について、学校の支援を求める意見がある。</p>				
研 修 校 内 の 研 究 状 況	校内研究の状況	<p>◆授業公開は頻繁に行われているものの、研究授業としての事後検討会は活性化しなかった。</p> <p>○授業力向上に関する教員の意欲の高まりがみられる。</p>				
	校内研修の状況	<p>○大学との連携による研修会を実施し、学校行事の取り組みに関する教員の指導の方向性を共通理解することができた。</p>				
家 庭 ・ 携 校 種 間 連	家庭・地域等の状況	<p>◆家庭学習の時間確保のための、保護者の協力・理解のための十分な啓発を行うことができなかった。(経年)</p>				
	小・中における教科連携等の状況	<p>○小学校教員が中学校において授業をする逆出前授業、中学校英語教員が小学校で授業をする出前授業を実施した。</p> <p>◆授業ベースでの小中連携は進んでいるものの、学習規律・学習習慣などの連携が不十分である。(経年)</p>				
		4月	10～11月	2～3月		
		成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)	年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
		<p>○資料の正確な読解をもとにして根拠を形成し、他者との学びをとおして自分の意見をもつことができる生徒を育成する。</p>	<p>○1日の読書時間30分以上が、全校生徒の70%以上となる。</p> <p>○「書くこと」に関する平均正答率を全国平均程度にあげる。</p> <p>○論理整合性のある文章を書くことを求める課題においてA評価が50%以上になる。</p>	<p>○ブックトークの取り組みを進め、本とおした対話、他者に自身の考えを説明する機会をつくる。</p> <p>○国語科の授業に限定せず議論を取り入れた授業を展開する。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査において「書くこと」の平均正答率が全国平均を上回った。</p> <p>○図書委員会を中心に読書活動の推進を継続中である。</p>	
		<p>○論理的な思考をもとに、自分の考えを説明できる生徒を育成する。</p>	<p>○論理的な思考を求める問題の正答率が昨年度同データより上昇する。</p>	<p>○小グループを活用して、互いに説明しあったり、教え合ったりする授業を開発し、実践を行う。</p> <p>○考えたことを説明する活動を生徒どうしが相互評価し、さらにわかりやすい説明に修正できる授業を開発し、実践を行う。</p>	<p>◆論理的な思考を求める問題に関する正答率の向上が達成できなかったため、授業において問題文から読み取った情報を図示する活動を組み込み改善を図る。</p>	
		<p>○主体的に学ぶ意欲をもち、日々の学習に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>○平日の家庭学習の時間が30分以上の生徒の割合が95%以上を達成する。</p> <p>○放課後教室の参加者の1日当たり平均参加者数25人以上を達成する。</p>	<p>○定期的な家庭生活状況調査の実施と結果を広報誌などを通じて公表し、家への周知を図り協力を求める。</p> <p>○放課後教室の在り方を見直し、自習教室に加え、取り組みの内容と受講対象を明確にした補習教室を原則毎木曜日に開催する。</p>	<p>○基本的な生活習慣(食事、睡眠等)については改善がみられる。</p> <p>◆家庭学習の時間については、目標の達成がなされていないため、啓発、指導に努める。</p>	
		<p>○生活習慣の改善による学習習慣の定着を図る。</p>	<p>○平日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合が75%以上を達成する。</p>	<p>○定期的な家庭生活状況調査の実施と結果を広報誌などを通じて公表し、家への周知を図り協力を求める。</p> <p>○生徒会と連携し、スマホマナーや利用心得を策定する。</p>	<p>◆家庭学習の時間については、目標が未達成のため啓発に努める。</p>	
		<p>○生徒が学ぶ目的(学びのゴール)を理解し、学んだ過程を振り返ることのできる授業づくりをする。</p>	<p>○学校評価アンケートにおける授業のわかりやすさに関する肯定的評価90%以上を達成する。</p>	<p>○めあてと振り返りに加えて、意図が明確な授業構成を全教科で行う。</p>	<p>○夏季休業中に授業研修会をもった。その成果を2学期の公開授業週間で確認する。</p>	
		<p>○脱講義型・脱活動主義型の意図が明確な授業開発に関する研究の推進。</p>	<p>○講師を招いた授業研究会を年間3回以上開催する。</p>	<p>○授業公開駆伝を実施する。</p> <p>○教科横断的な授業を技術家庭科、理科、社会科で実施する。</p>	<p>○授業研究会を2学期、3学期に実施する予定である。</p> <p>○学習指導案のひな型を作成した。意図的な授業づくりに対する研究を深める。</p>	
		<p>○学力向上にむけた小中連携に関する具体的な行動計画の策定。</p>	<p>○小中連携に関する研修会を校区小学校と共催する。</p>	<p>○中学校進路担当者主催の研修会をもち、小中一貫体制の学習習慣学習規律の確立をめざす。</p>	<p>○夏季休業中に開催した小中合同研修会の分科会で協議を深めた。</p>	
		<p>○保護者の家庭における具体的な学習支援策を示す。</p>	<p>○平日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合が75%以上を達成する。</p>	<p>○学校だより、学年だよりを活用し、家庭への啓発を行う。</p>	<p>○学校だより、学年だよりを活用し、継続して家庭への啓発を行う。</p>	
		<p>○学力向上にむけた小中連携に関する具体的な行動計画の策定。</p>	<p>○小中の授業交流を年間2回以上実施する。</p> <p>○小中連携に関する情報交換会を学期ごとに開催する。</p>	<p>○小中で取り組むことができる学習習慣・学習規律について協議する研修会を開催し、情報の共有化を図る。</p>	<p>○小中で取り組むことができる学習習慣・学習規律について協議する合同研修会を開催し、情報の共有化を図った。</p>	